

敦賀躍進総仕上げと 新たな課題へのチャレンジ予算

令和4年度当初予算は、第7次総合計画策定後初めての予算です。「次世代につなげる夢と希望に満ちた住みたくなるまち敦賀」を実現するために、限られた財源を4つの重点施策へ配分することを基本に当初予算編成を行いました。

4つの 重点施策

- ① 子育て環境日本一の実践
- ② 新幹線開業に向けたにぎわいの創出
- ③ グリーン&デジタル都市への挑戦
- ④ コロナケア（感染予防・拡大防止、生活・事業者支援、消費喚起）

04 令和4年度 主な事業 ※予算額は千円以下を切り捨てた額を掲載しています。

子育て環境日本一の実践

■ 地域子育て支援拠点事業費 1,456万円

親子が気軽に集い、育児相談などを行う場を設置することにより、親の子育てへの負担の緩和や安心して子育てができる地域の子育て支援機能の充実を図ります。



■ 角鹿児童クラブ整備事業費 1億5,066万円

角鹿中学校区小中一貫校の設置に伴い、学校敷地内に児童クラブを整備します。



新幹線開業に向けたにぎわいの創出

■ 知育・啓発施設運営事業費 1億3,718万円

“書店”でもない“図書館”でもない新たな知の拠点である知育・啓発施設「ちえなみき」を通じて、多くの本や人が出会うことで、これまでにない読書体験を提供します。



■ ホテル等改修支援事業費補助金 3,000万円

北陸新幹線敦賀開業や今後のインバウンド観光客の増加を見据えたホテル・旅館の受け入れ環境の整備に支援を行い、市内宿泊客の満足度向上およびピーターの確保につなげます。



グリーン&デジタル都市への挑戦

■ 環境基本計画推進事業費 756万円

ゼロカーボンへの取り組みや海岸漂着ごみへの対応といった地球規模の問題から、ごみの減量およびリサイクル、大気、水質、騒音などの地域生活における身近な問題まで、近年の環境保全に関する問題は多様化・複雑化しています。このような本市を取り巻く環境問題や社会情勢などの変化に対応するため、新たに令和5年度から令和14年度までを計画期間とした第3次環境基本計画を策定します。



■ 道路除雪情報発信事業費 821万円

積雪時でもより円滑な交通を図ることを目的に、除雪車にGPS装置を設置し、作業進捗状況の把握、作業車走行軌跡の「見える化」の促進など、情報発信を強化します。



コロナケア（感染予防・拡大防止、生活・事業者支援、消費喚起）

■ 新型コロナウイルスワクチン接種体制確保事業費 7,700万円

新型コロナウイルスワクチン接種について、3回目の追加接種を安全かつ円滑に実施するために必要な体制整備を行います。



■ 高齢者外出支援事業費 1,655万円

高齢者が市内対象施設を利用する際の入場料を割引します。コロナ禍で外出を控えていた高齢者の外出に対する意欲を引き出すことで、高齢者の活動的な生活環境を維持し、社会参加の促進および健康の維持増進を目指します。



その他事業

■ 重層的支援体制移行準備事業費 556万円

複雑化・複合化する支援ニーズに対応するための体制づくりを行います。

■ 一般廃棄物最終処分場整備事業費 12億1,056万円

敦賀市と美浜町の2市町にて共同で進めている一般廃棄物最終処分場の建設工事を実施します。

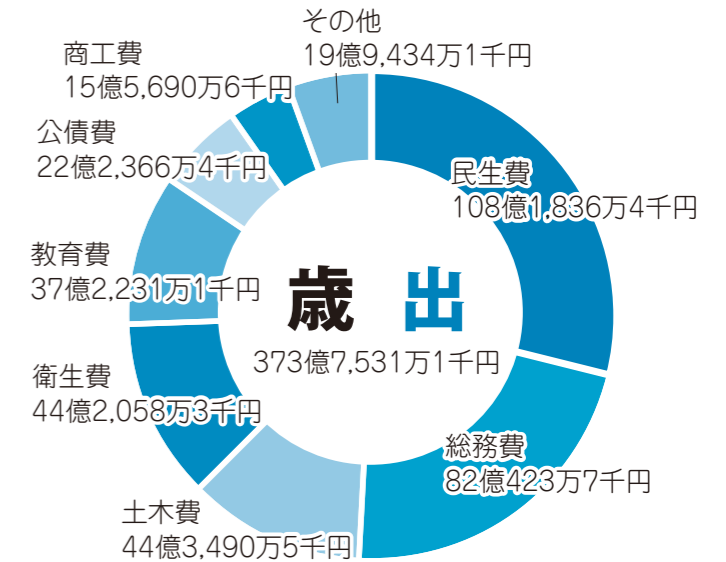
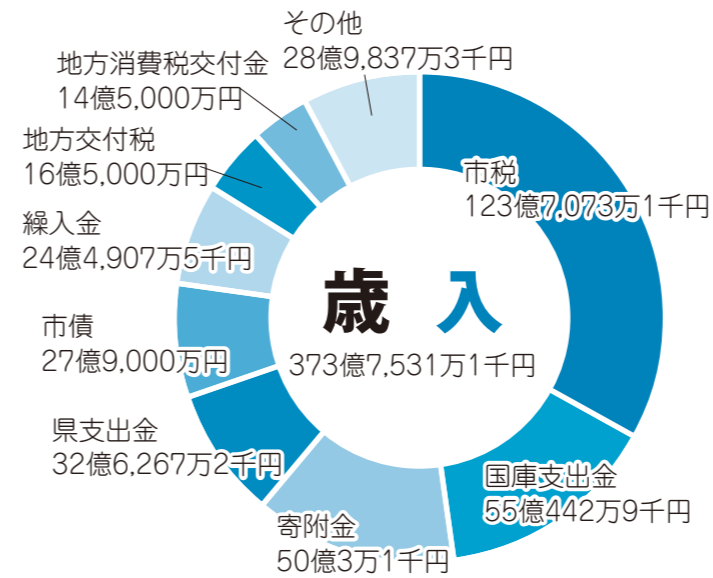
01 予算総額

一般会計は、一般廃棄物最終処分場や北陸新幹線駅周辺施設の整備進捗、さらにはふるさと納税寄附金の増加などにより、前年度当初予算と比較して15.3%の増となりました。

特別会計では、公共用地先行取得事業の進捗などに伴い、0.1%の減となり、企業会計では、病院事業会計における患者増に伴う薬品費の増加や医療器械購入費の増加などにより6.4%の増となりました。

一般会計	373億7,531万1千円 (前年度比 +15.3%)
特別会計	138億8,935万4千円 (前年度比 -0.1%)
企業会計	166億4,465万6千円 (前年度比 +6.4%)
合計	679億932万1千円 (前年度比 +9.6%)

02 一般会計の内訳



03 市債と基金の残高

市債残高は、一般廃棄物最終処分場整備事業の進捗などの影響により、増加することが見込まれます。基金残高は、公共施設等総合管理基金からの繰入が増加するため、減少することを見込んでいます。

■ 市債（借金）の残高見込（一般会計）

	令和2年度末	令和3年度末	令和4年度末
市債残高	277.3億円	284.1億円	291.2億円

■ 基金（貯金）の残高見込（一般会計）

	令和2年度末	令和3年度末	令和4年度末
財政調整基金	31.2億円	31.6億円	31.6億円
目的基金	103.0億円	129.2億円	125.8億円
定額運用基金	8.3億円	8.5億円	8.5億円
合計	142.5億円	169.3億円	165.9億円

※定額運用基金の増加は、奨学育英資金貸付基金の特別奨学金制度による増加です。